学芸大国際、三田国際合格

・中学受験を決めたきっかけ

　赴任先のインターナショナルスクールによく馴染んでいたので、できるだけ似たような環境で勉強を続けられたらいいなと漠然と思っていました。帰国したのが小 5 の 3 学期で、英語以外は何もやってこなかったのですが、インターネットで調べたところ、英語や作文と面接で受けられる学校がいくつかあると知り、それならチャンスはあるだろうと思ったのがきっかけです。

・現地での学習で苦労したこと、うまくいったこと

　小 3 の春からフランスのアメリカンスクールに入りましたが、最初は英語が全くわからなかったので、日本の算数や国語の勉強どころではなかったです。その学校に慣れることを優先させました。2 年目の後半くらいから、Z 会のタブレットコースで少しずつ勉強してもらいましたが、その必要性を本人が実感していなかったので、カリキュラムを機械的にこなしただけでした。勉強に関して、親が自力でみていくのは難しいと実感した時期でした。ですが、漢字だけはきっとあとで苦労すると思い、週末にドリルを使って一緒に勉強しました。英語の本を読めるようになってきた頃、漢字をいくらやっても覚えられない時期がありました。漢字を覚えられない病気なのかなと疑ったほどです。しかしその後、英語を安定して使えるようになると、また漢字を覚えるようになりました。きっとインプットの量が多すぎたのだと思います。そういうことがあったので、基本的には英語を帰国ギリギリまで伸ばしてほしいと思い、受験勉強を帰国前に始めることはしませんでした。

・帰国後の学習で苦労したこと、うまくいったこと

　英語以外はノータッチでしたので、最初から、英語以外では戦えないと思っていました。なので英語を伸ばすこと中心に考えていましたが、日本国内で英語をどんどん使うのはほぼ不可能なので、色々な工夫が必要でした。塾の英語の授業の他に、オンライン英会話、英字新聞、英語読書、英検対策など、課題をいくつも用意して毎日取り組んでもらいました。本人は英語は好きで自信があるので、そんなに嫌がらずに取り組みました。洋書は Amazon かフリマアプリで購入して読み終わったらフリマアプリで他の方に譲るという方式にして、いつも何か読んでいる状態をキープしました。

　志望校に日本語作文が必要だったので、日本語作文のクラスに入りましたが、
塾の先生のおすすめで国語も取ることにしました。そのおかげで、漢字や語句にも強くなり、読解もできるようになりました。算数は中学入学後に苦労しないように、完全に諦めることはせず、家で簡単な問題集を一通り終えてから、夏期講習から塾のクラスに参加しました。結果、算数と国語も少しできるようになったので、志望校選びの幅が広がりました。

・学校選びのポイント

　学校選びのポイントは人それぞれだと思いますが、試験の日程は結果に大きく関わってくるようです。帰国入試は、入学金納入を待ってくれる学校が少ないですので、
我が家は入試時期の早いいくつかの学校は見送って、合格に届きそうな学校のうち一番行きたい学校を最初に受けることにしました。その後、それが不合格だったときに受ける学校をいくつか考えたうえで、それとは別にラスボスとしてチャレンジする学校①、②を受けるという順番になりました。

　結果、無事に一校目に合格しました。ところが、本人としてはすでに十分に魅力的な学校に合格できたので、11 月末時点で、これ以上勉強を続けていく気力がなくなってしまいました。塾の先生が電話で、「こ

こでやめるのはもったいないから、最後まで楽しく勉強して、チャレンジ校も受けてみたら違う人生が待ってるかも知れないよ」と仰ってくださったので、その後やる気を取り戻し、チャレンジ校②に合格することができました。

・これから受験する生徒さんの保護者様へのアドバイス

　アドバイスなどは特にありませんが、、、英語をさんざん勉強して、英検 1 級もクリアしたので、渋渋（上記のチャレンジ校①）を受けましたが、合格には至りませんでした。力試しとはいえ、本人にとって魅力的なクラブ活動（クイズや鉄道研究）があって、
できれば合格して行ってみたいなという気持ちがあったので、当日は本気で臨んだと思います。試験のあと、「リスニングできた。読解できた。ライティングもちゃんと書けた。国語算数も全部埋まったから 10 点は絶対取れてると思う。だからこれで落ちてたらもう仕方がない」と言っていました。かなり自信があったようで結果を楽しみにしていましたが、不合格でした。やはり帰国生らしく、難しい単語はたくさん知っている反面、基本的な文法やスペルでのミス、文章が口語的になってしまうことなどがちょくちょくあるので、そういうところがもっと厳しくできていないと、こういう難関校の合格には、届かないのかも知れないと思いました。

・志望校合格の瞬間の気持ち

　試験で本人の良いところがきちんと出せて、それをしっかり見て選んでもらえたのだと思い、本当にありがたく感じました。一年前に初めて書いた作文を思い出し、あの状態から根気強く書き方を教えてくださった塾の先生に、早くお知らせしたいと思いました。

広尾小石川、三田国際、芝国際合格

私達は、海外(非英語圏)で 6 年半過ごし、5 年生の夏期講習から 3 教科全て ena 東京校でお世話になりました。海外ではインターに在籍し、日本人学校、補習校、塾がない環境で、家庭で日本の通信教育(チャレンジ、Z 会)を使い勉強していました。受験の勉強は家庭で教えるには限界があるなと頭を悩ませながら過ごしていましたが、今思えば、オンラインで塾の授業が受けるという方法があったのだと思います。情報不足でした。

(中学受験について)
英語の取り出し授業をしている中学校に行かせたいというのが、中学受験のきっかけです。日本では取り出し授業をされている中学校がたくさんあることがわかり、最終的には、帰国生が多い、国内海外大学へのサポート、ネイティブの先生が多い、通学が片道 1 時間以内が優先事項になりました。

(5 年帰国時)
日本に帰国し、学校に慣れるのは早かったのですが、受験勉強を進めようとした時、インターで習ってきたことよりもはるかに難しく、習っていないことばがり。帰国してすぐに塾を探し、夏休みにいくつかの塾を体験しました。

(塾決め)
ena 東京校での受講を決めたのは、夏期講習が楽しかったと息子が言ったからというのもありますが、親視点で ena 東京校の先生方はきめ細やかで、授業で何をやったか、宿題は何かを随時メールで送って下さいます。授業の状況がわかりやすく、対面/オンラインはフレキシブル、問い合わせに対して返信が早くしっかり対応して下さったからです。

(5 年夏～冬)
算数、国語を模試の平均点まで持っていくこと、また英語は英検準一級をとることを目標に頑張りました。5 年生の 3 学期に英検準一級合格、算国は流動的ではありましたが、何とか日々の内容についていく感じでした。

(6 年春)
6 年上期の塾の講座を見た時、たくさんの講座を目にして、受験がいよいよ間近に迫っていると不安になったことを覚えています。受験校はうっすら雲がかかった状態で決めきれず、息子と話し合いながら、まず私が 20 校程受験校のオンライン学校説明会や合同説明会に参加しました。聞けば聞くほど関東圏の学校の選択肢の多さに絞りきれず、偏差値や受験科目でも悩みが続きます。英語一本では難しいから、この時は大学附属校や伝統校、3 教科受験で英語のレベルが英検二級～準一級ぐらいという学校で探し、どこに行きたいかというより、偏差値と受験パターンを幅広く見てました。

(6 年夏)
夏期講習までは、教科を絞らず 3 教科頑張ろうと塾からのコメントを見て、できる限り 3 教科受講しました。夏休みは特に誘惑が多く、宿題も追いつかない日々で、算数の先生が復習ノート出さないと授業参加できないよ～とルールを作って下さったおかげで、これは絶対やってから寝ると頼もしく感じた時もありま

した。しかしこの時期が 1 番親子バトルが多かった時期のように思います。夏休み、子供も遊びたいですよね、でも親としては、なんとか頑張ってほしい。この繰り返しでした。

(6 年夏～秋)
　夏休みに、体験授業や説明会などに行きながら、息子から、ようやくここに行きたい！という言葉が出るようになりました。帰国子女が多い国際系の学校だったので、6年後期の講座からは国際系の試験科目で重要な英語の時間を多めにとり、広尾学園の全ての対策講座を受講しました。説明会に行くと、息子が目をキラキラさせている時もあれば、無理～合わない～と色々感じることがあったようです。

(6 年秋～冬)
　模試の結果が夏休み後から急降下。パニックでした。受験を通して 10 月が 1 番胃が痛かったです。全落ちしたらどうしよう。11 月だめだったら、12 月安全校を増やさないとと、10 校ぐらいをリストアップしてました。志望理由書、書類書類、、、日々頭の中がいっぱいでした。永田先生のブログやオンラインで受講する時、先生方から聞こえる愛のこもった”カツ”が日々の心の支えでした。そして、年内に一校合格！を目標にしていました。

(受験期)
　受験期間中もなるべく学校は行かせました。秋は学校の行事が多く、土曜日朝 5 時半起きして、行事に参加、くたくたになって帰ってきて、翌日受験という日もありました。体育会系ではない息子ですが、忙しい中でも精神が保てるのは、夏期講習の怒涛の日々や忙しい日々でも塾と学校、習い事を両立したこと、また塾で共に頑張る同士がいたからだと思います。
　11 月受験がはじまり、すぐに奇跡が起きました。息子の偏差値では予想していなかった学校から合格を頂きました。初めての合格は格別で、息子と私は最寄り駅で抱き合って喜びました。それから S 国際、M 国際からも合格を頂きました。結果論ですが、3 教科と作文面接を最後まで頑張ったのが良かったのではないかと思います。
　早くに合格を手にしたので、12 月に中弛みしてしまったかもしれません。残念ながら第一希望の学校はご縁がありませんでしたが、2 月の受験を最後までやり切ったことを誇りに思います。

(息子より)
　作文と面接の講座を早くから受講していたことで、自分と向き合い、自信に繋がったので、ぜひ後輩の皆様にお薦めしたいとのことでした。山中先生の授業はどの授業を受けても親子で元気をもらえます。また 3 教科を諦めずに続けて良かったです。また広尾学園、広尾学園小石川を受ける人は算国英の全ての対策講座をお薦めしたいとのことでした。

(受験を終えて)
　息子のやる気を最大限に引き出して下さった ena 東京校の先生の熱意には感謝の気持ちでいっぱいです。永田先生の的確なアドバイスや指導力、子供達の心をしっかり掴んでいらっしゃる山中先生、お兄さんのような存在で熱心な佐々木先生、子供達をよく見て下さっていると思います。英語に関しては、私は未知の領域ですが、親身に対応して頂きました。私達親子にとっては 3 教科同じ塾だったのは良かったと思います。塾が大好きな我が子と、親子で ena 東京校様とご縁があって良かったねと話しています。

(保護者様へ)

　受験は本人の実力ですが、親がやることも本当に多いです。説明会の予約の争奪戦から始まり、説明会、オープンスクール、学園祭への参加、塾の宿題の把握やフォロー、丸つけ、過去問、志望校対策、受験校の募集要項の確認、志望理由書、提出書類の準備、出願手続き、予防接種や体調管理、受験日当日の付き添いに合格時の資料の受け取りなど、多岐に渡ります。早め早めにしていたつもりでも時間に追われるので、スケジュール管理は念入りに。全ての苦労は、合格の文字を見た瞬間、吹き飛びます！

皆さまが笑顔で 4 月を迎えられますよう、心よりエールを送ります。

東邦、山脇、かえつ有明合格

・中学受験を決めたきっかけ
　3 歳の時に渡米し、6 年間のニューヨーク生活を経て小学校 4 年生の初めに帰国することとなりました。同じタイミングで帰国した姉が帰国生試験を経てちょうど中学校入学のタイミングであったため、親としては自然と帰国生受験が頭の中にありました。渡米前は中学校受験自体にあまり思いはありませんでしたが、子ども本人がやはりせっかくの英語の経験を活かしたい、高いレベルで保持したい、という意思を持っていたため、帰国生受験をすることに決めました。その際、将来のために今我慢しなければならないことも多くあること、それでもチャレンジしたいかを確認し、努力していこうと話しました。

・現地での学習で苦労したこと、うまくいったこと
　現地ではまだ低学年であったこともあり、特に塾には行かず、現地校や補習校の勉強が中心でした。

・帰国後の学習で苦労したこと、うまくいったこと
　我が家の場合はとにかく家族一丸となってペース配分をコントロールしていました。子供との関わり方については賛否両論あると思いますが、子供が自分自身で勉強内容や時間のマネジメントを行うことはかなり難しいのでは、と思ったからです。予定した学習スケジュール・内容をホワイトボードを使用して子供と共有し、とにかく一緒に問題を解く時間を確保するようにしました。中学校受験は家族の受験、とはよく言われますが、我が家の場合はまさにその通りであったと思います。だからこそ、子供が付いて来れるよう、体調管理や学習内容の消化具合には大変気を遣いました。
具体的には、モチベーションをあげるため、1 日のやるべきことを終えたら進める双六を作ったり、プリントを 2 枚用意して、親が同時に解き競争するなどの取り組みをしてみました。また、志望校が決まって過去問に挑戦する段階では、実際の試験と同じスケジュールで問題を解く練習をしました。

・学校選びのポイント
　複数校の学校見学を行いましたが、行ってみると子供の中でも明確に優先順位付けができるため、早い段階から行ってみるといいと思います。特に現地見学はあっという間に枠が埋まります。
　我が家は英語の取り出し授業があること、やりたい部活があること、なんとなく温和な学校の雰囲気、などを総合して子供が志望校を複数選び、親としても同じ思いで志望順位をつけていきました。
・これから受験する生徒さんの保護者様へのアドバイス
　親としても一定の覚悟は必要になると思います。子供の自立走行に任せる手もありますが、できる限り本人・塾・家族それぞれの役割をしっかり決めて学習を進めた方が、受験日に向けて道筋を立てやすく、かつ何かあった時には軌道修正しやすいと思います。

・志望校合格の瞬間のお気持ち
　サイトにログインして合格の文字が出た瞬間、本当にこれまでの感情が溢れてきました。本人もこれまで聞いたことのない泣き方で嬉しさを表現していました。目標に向かって努力すること、最終的には偶然も重なるかもしれませんが結果を出すことなど、今後の人生において一つの自信が生まれるものと思います。

渋谷幕張、広尾、広尾小石川、芝国際、山脇合格

・中学受験を決めたきっかけ

　現地校に通い始め海外大学進学の夢が芽生えました。英語力保持の為に英語に強い中学を希望しました。

・現地での学習で苦労したこと、うまくいったこと

　苦労したこと・・勉強時間の確保が困難でした。夏期講習なども受けられない日が多くありました。

　うまくいったこと・・夏期講習などの受けられなかった日も、メールをいただけたので追いつきたいと逆に気合が入っていました。

・学校選びのポイント

　海外大学への道が近そうな学校を中心に選びました

・これから受験する生徒さんの保護者様へのアドバイス

　永田先生の「合格するには対策することが大切」の言葉を信じました。本命校では無い学校こそ、研究をして対策講座を受けて当日を迎えました。

・志望校合格の瞬間のお気持ち→ありがとう。だけでした。

成蹊、かえつ有明、関東学院、サレジアン国際合格

　小２の２学期から小４の２学期までを北欧で過ごす。田舎町で日本人学校もインターナショナルスクールもなかったため、現地校（現地語と英語のバイリンガルクラス）でどっぷり現地の生活を楽しんだ。

・中学受験を決めたきっかけ
　現地での生活に集中してもらいたかったため、大使館から配布された教科書で漢字と最低限の算数の勉強はしていたものの、中学受験は考えていなかった。しかし、帰国したら中学受験をするクラスメートが大半で、遊び相手もおらず、塾の話で盛り上がるお友達の輪になかなか入れず、本人が小５の GW 前に受験したい、塾に行きたいと言ってきた。
　現地滞在中に発症した腎臓病の治療もあり、帰国後の生活を軌道に乗せるだけで精一杯という状況下、正直親としては乗り気ではなかったが、何度もお願いされ仕方なく塾探しを開始。どこに相談すればよいかも分からず、聞いたことのあった大手集団塾に連絡したところ、どこも門前払い。流れるように大手塾の個別指導塾へ。そこで初めて、一般とは異なる帰国生入試があることも知った。
　実は小5の夏にまた現地に一時戻ることになっていて、気持ちも受験にまっすぐ向かわないまま小5の冬に。ネット記事で見かけた ena 国際部が近くにあることを知り、とりあえず英語だけお世話になることにした。似た境遇の帰国生のお友達ができ、ena には喜んで通っていた。全部 ena に転塾した方がよいかと何度も迷ったが踏ん切りがつかなかった。小６の５月に個別指導塾で決定的な事態が発生、完全に ena に切り替えたのが小６の６月。はっきり言って遅すぎた。

・現地での学習で苦労したこと、うまくいったこと
　現地に行ったときは、英語も分からない、現地語ももちろん分からない、漢字は日常見ることもないので覚えられない・・学習面ではとにかくできないことが重なった。でも本人は、のびのびとした現地での生活を満喫していた。親としてはそれだけで十分だった。

・帰国後の学習で苦労したこと、うまくいったこと
　語彙力がないため、国語ができないだけでなく、算数の問題の意味が分からない、社会の教科書は宇宙語のようで読む気力すらないという感じで、受験どころか学校での学習もすべてに戸惑った。まず漢字をしっかり学び直すことから始め、算数は日本語力の必要ない計算から始めた。日々日本語に触れる中で、１年くらいでだいぶ日本語の理解がよくなってきたように感じた。
　一方、期待していなかった英語は、現地校の日常生活だけで意外に上達していたようで、英検２級までは取得できた。

・学校選びのポイント
　通学できる範囲で帰国生入試のある学校の中から、オンラインも含めて 20 校ほど説明会に参加し、「ここは合わない」という学校を外していって、本人と一緒に９校の学校見学に行った。最終的には本人が気に入った６校を受験校として選んだ。受験に際しては、なるべく早い時期に１校は合格できるよう、受験科目（英検で試験が免除される等）や倍率も考慮して、慎重を期して計画した。親としてはどこも同じように第一志望というスタンスでいるように努めた。

・これから受験する生徒さんの保護者様へのアドバイス

＜心掛けていたこと＞
世の中にあふれるきらきらサクセスストーリーに惑わされないこと。現実的な戦略を練ること。睡眠時間をしっかり確保すること（治療による体力的な問題もあり、息子は 20 時半～21 時には就寝していた）。

＜後悔していること＞
初めにしっかり情報収集し、早めに家族で覚悟を決めればよかった。もっと早くスタートすればよかった。無理に難しいことをさせて本人を追い込むくらいなら、手の届きそうなレベルのものだけでも 100%できるようにすべきだった。

・志望校合格の瞬間のお気持ち
精神的に幼く、自走モードには程遠いまま受験を迎え、受験生として最後まで甘さが残っていたため、経過で不合格になった時も親は割と淡々としていた。ただ、成蹊の入試で受験を終わらせることは決めていたので、有終の美を飾れるといいなとは思っていた。成蹊の試験の後、祖父母も含め皆が祈るような気持ちで仏壇に手を合わせ、神棚を拝んだ。スマホの画面に桜が舞った時には、家族全員が歓喜した。本人は合格そのものよりも受験から解放されることの方が嬉しそうだった。

学芸大国際、明星学園合格

・中学受験を決めたきっかけ

　もともと中学受験をする気はありませんでしたが、小学校の英語の授業を持て余してしまったこと、東京の小学校に転入後馴染むまで時間がかかったこともあり、中学は自分で選ぶということで受験をすることにしました。

・学習で苦労したこと、うまくいったこと

　5 年生から ena に入りましたが、最初、算数について行くのが大変でした。その後少しずつコツを掴んで、好きな授業のひとつになったと思います。志望校の算数の難易度が高くないこともあり、上のクラスにもいかないでいたこともマイペースに勉強を続けられたのかなと思います。

　帰国後年数が経っていたのですが、かねてから英語維持のために英検の勉強をしていて、ena に入ったことでさらに上の級も目指せて、モチベーションの維持にもつながったかなと思います。

　ただ 2 年間の受験期間は、やはり長いと感じました。入試前の 12 月ごろからは、飽きがきて、こんな状態で受かるかなと思う日々が続きました。しかも直前は、長編の小説を読みふけっていたので、内心ハラハラしていました。ただ、勉強が嫌いになってほしくなかったという思いと、この受験は親でなく息子の受験だからと自分に言い聞かせて、息子の自主性に任せました。結果、行きたい学校に受かったので、よかったと思っていますが、もし全部落ちていたら、もう少し促せばよかったのかなという思いもあったんだろうなと思います。

・学校選びのポイント

　入学後に、息子が向上心をもって学べそうな学校を選ぶポイントにしました。得意の英語を使って受験をしたかったのですが、帰国後の年数が長く、帰国子女枠で受けれる学校が限られていました。ただ前から関心があった IB 教育の学校が帰国後の年数に制限がなかったので、そこを第一志望にしました。

・志望校合格の瞬間のお気持ち

　第二志望が不合格だったこともあって、半ばあきらめ気味に結果を見に行きましたが、番号をみつけた瞬間は、喜怒哀楽というよりも無な感じで、あったわ、と思いました。家に帰って、うれしそうな息子や家族と会って、やっと実感がわきました。

学習院、かえつ有明、文大杉並合格

小学4年生の7月に帰国するまで、滞在国のインターナショナルスクールに2年間、その後アメリカンスクールに2年間通っていました。

当時の英語力は、お友達との会話には不自由せず、学校の授業には何とかついていける程度で、小 5 の夏に英検 2 級を取得しました。

帰国した当初は、中学受験をあまり意識しておらず、英語力を磨けるような塾を探すなか、ena 国際部を見つけ、実力試しに小 4 の 1 月模試（3 教科）を受けたのが ena との出会いのきっかけです。

模試後のオンライン解説授業で永田先生の算数の講義を受け、本人が「面白かった。もしこの先生に習えるなら、算数もやってみたい」と言って親を驚かせ（中学受験は絶対したくないと、本人が言っていたので）、まずは英語と算数の受講を決めました。その後、だんだん受験の世界を知るようになり、模試の結果から、このままでは国語も受けないとまずいとなり、小 5 の 5 月以降に国算英の3教科を受講するようになりました。

本人は、淡々とコツコツ勉強するタイプなので、漢字や知識問題はやればやるほど、確実に国語の得点につながる手応えを感じていました。特殊な受験算数には、毎回格闘し、はじめは親も一緒に宿題を解いていましたが、出来なかった問題が解けるようになる喜びが、何より本人のモチベーションと自信につながったように思います。一方で、もともと控えめな性格で、ディスカッションや自己PRが苦手なため、帰国子女とはいえ、英語の授業中に発言することにはプレッシャーを感じていたようです。また、帰国後は日本の公立小学校に慣れることを第一優先したため、英語の授業はどこか受け身になり、もともと苦手意識が高い英語を、オンライン画面越しで、マスクを通してネイティブ講師のリスニングをするのは難しかったのかもしれず、できれば対面授業を選択すべきだったと思っています。

受験勉強を始めてからの 2 年間は、模試の結果を見るたびに一喜一憂し（憂の方が多かったです）、親も揺れることばかりでした。特に、本番直前の 10 月模試で、本人が悔いても悔やみきれないほどのミスを連発し、成績がガタッと下がったことがありました。自分では出来たつもりの問題が、解説授業を聞いてことごとく間違っていたことを知り、「もうどこにも受かる気がしない」と言って、初めて泣き出したのを覚えています。そのことを宿題提出の際に永田先生にメールすると、「練習ではいろんな経験をして強くなること／圧倒的な学力を身に付けること／失敗に動じないこと」という明確なアドバイスをくださり、「あ、そっか。模試は本番じゃないんだ、今のうちにミスしやすい所を発見できてよかった」と、本人の気持ちがぱっと切り替わったのが分かりました。親子でどっぷり受験にはまると、互いに今しか見えず、感情のコントロールが難しいですが、数々の受験生（親も）を見てこられた先生方は、常にその先を見据えてアドバイスしてくださるので、とても有難かったです。受験校で自信があった学校が不合格だった時も、「既に合格した学校もあるし、本命は次だよね」と、からっと励ましていただいたおかげで、動揺が収まり、早く気持ちを切り替えて、次へ向かうことができました。

山中先生にも、面談の機会や折々ご連絡をいただき、本人に一番必要なことは、焦る親の気持ちをぶつけることではなく、力強い励ましであり、何より自信をつけさせてあげることだということを気づかされました。

受験校は、国算2教科を中心に考え、気になる学校は実際に足を運び、学校説明会や文化祭などに参加しました。特に、文化祭やクラブ体験会など、直接生徒さんと触れ合うことができる機会が本人にとって一番印象に残るようで、おのずと本命が絞られていきました。面接の練習では、はじめはしどろもどろでしたが、このクラブに入りたい、中学でこれをしたいなど、自分の一年後を思い描くようになると、自然と面接の一言一言にも実感がこもるようになりました。

本命の学校の合格通知を見た時の喜びはひとしおで、もともとは引っ込み思案な性格ですが、「今からena に行って、直接先生に報告してくる！」と言い出した時は、先生方への感謝の気持ちで溢れていることを感じました。

中学受験を通して、親から見ると、正直、小学生には過酷な世界だと感じることもあり、何度もくじけそうになりましたが、先生方に親子共に励ましていただき、つまずいても両手をついて奮い立つことができました。振り返ると、大きな目標に向かって挑戦するかけがえのない体験を通して、息子の心が成長したことが何よりの成果だと感じます。

一方で、不合格も経験し、現実は甘くないこと、相対評価の厳しさ、限界をこえる努力の意味、弱さを認める強さ、昨日より今日前進したと言える自信の大切さなど、多くのことを学びました。

嬉しい合格も、悔しい不合格も、全て血肉として、これからの中学校生活に生かしてもらいたいと思っています。先生方には大変お世話になり、ありがとうございました。

都立白鷗、高輪合格

・中学受験を決めたきっかけ
小学 4 年生の時に、息子がお友だちの影響から中学受験したいと言ってきたため。

・現地での学習で苦労したこと、うまくいったこと
　中国に滞在していたのですが、ちょうどコロナの影響で帰国者が多く、生徒数が激減したために、唯一あった日本人向けの塾でも、中学受験コースが開講されなかったため、通塾が叶わず、また息子はオンライン授業は不向きなため塾は諦め、4、5 年の時は家でひたすらスタサプを使い、私が勉強のフォローをしていたのが苦労しました。
　演習問題の量は少なかったものの、受験算数の基礎である色々な特殊算や単位、平方数など覚えておくべき数字などは繰り返しやらせていたので、帰国後、レベルについて行くのは大変でしたが、基礎が出来ていたのは良かったと思いました。

・帰国後の学習で苦労したこと、うまくいったこと
　6 年の 7 月に帰国するまで、現地の塾で中学受験対策が出来なかったので、帰国後すぐに受けた ena の模試もボロボロで、問題のレベルも高くついていくのが大変でした。

・学校選びのポイント
　学費の安さと通学のしやすさから、国立と都立。あとは、せっかく算数と国語も頑張ってきたので、2 科目受験が出来る所で、偏差値的にも頑張れば手が届くと思える範囲で、学費も高過ぎず、受かったら是非とも行かせたいと思える私立を子どもと一緒に検討して決めました。

・これから受験する生徒さんの保護者様へのアドバイス
　ダラダラ勉強したり、ウジウジ不貞腐れたり、我が子の態度に幾度となくイライラさせられ、怒鳴ったりもしてしまいましたが、とにかく根気強く励まし、最後まで諦めさせないように声掛けを続けました。
　たとえ結果が伴わなくても、その後の高校受験や子どもの人生にプラスになったと思える体験になれば良いと思うようにしたら、気が楽になりました。

・志望校合格の瞬間のお気持ち
　本当に嬉しくて、子どもと抱き合って喜びました。息子の努力が報われて良かったと思いました。

三田国際、広尾小石川、芝国際、かえつ有明合格

幼稚園の年長から3年間シンガポールにおり、現地のインター校で学び、息子は小3の夏に帰国いたしました。毎朝7時にバスがくるような生活でしたので当時は大変だったと思いますが、徐々にクラスにもなれ新しいことを吸収する姿は大変楽しみでした。当時は学校のクラブでサッカーをやっていたほか、本もよく読んでおり、あわせて公文英語を続けていましたことから、英語力は相応に伸びたようでした。帰国後も公文だけは教室の先生のご方針もあり続けていくことができ5年に最終教材到達までいたったことと、あわせて英検準1級をとっておいたことは、結果的に帰国生入試に大いに役立ちました。

4年生のころにロックダウンとなり私がサポートする形でエルカミノに通い始め、当初は通常受験を予定しておりましたが、難易度があがるにつれ徐々についていくのが難しくなったほか、それなりに指導も厳しい面もあったことから、本人的にもお菓子を食べるのがやめられないなどの精神的に不安定なってしまい、小5になりもう少し楽しんで塾に行かせようと日能研に変えました。そのころからは塾には行くものの、好きな科目以外の宿題もあまりまじめにやらなくなり、成績も下がる一方でした。6年生になり周りが受験モードになっても、本人は優先度をつけられず日本語や英語の本読んだりパソコンをしたりする状況で、親が焦る感じでした。

夏前になり、それまで定まらなかった受験校選びに際し、本人から英語力を伸ばせる学校という希望がありましたので、国際系に絞るために帰国子女枠を活用することとし、ena の門をたたいて英語中心に受験情報もサポートいただくダブルスクールにすることにしました。夏季講習は英語に寄せるか4科目の完成度を上げるかで相当悩ましい部分でしたが、英語に注力するのは秋以降と決め、いくつか英語のクラスのみスロットを受講し、9月以降英語クラス・インタビュークラス・Hiroo English 等を中心に英語に受講をさせていただきました。本人はいたってマイペースで受験に対してのやる気が高まっているかどうか微妙なところでしたが、親としては少なくとも中学校以降、英語の授業に対する雰囲気がわかり学校で勉強する気持ちが高まることを期待し、また並行して学校見学などに行くことで、ようやく志望校についてはイメージがわいてくるようになりました。

結局英語の過去問になれるだけの10月がすぎ、11/3 の広尾小石川 AG の試験になりました。これまでたくさんの過去問をいただき対策は練れているはずでしたが、本人はエッセイの方向性含めあまり対策ができておらず、前日に何とか詰め込む形で受けさせましたがあえなく不合格。はじめはなかなか難しいとは思っておりましたがやはり厳しい結果でした。

その後、11/6 の芝国際は、本人にとって受けやすかったのかいい成績が残せて合格となり、月後半の開智・かえつ・三田国際にすすみました。英語の過去問中心に解いた程度で、算国の過去問もあまり解かずに受ける状況ではありましたが、三田国際は志望度が高かったこともあり、過去問が一つしかなく何度か解きました。その後あとは、12 月に入り、広尾小石川の再チャレンジをして合格し受験が終わりました。

結果としては、ena の試験では広尾小石川・三田国際ともに合格ボーダーではあったものの、なんとか最後は英語力で合格にたどり着きました。

そのあとの顛末はご相談の通りです。英語中心のクラスにするか、英語もそのほかもバランスよく伸ばすか、スポーツが活発か、中学時代に留学はあるかどうかなど、様々な論点を比較し、ぎりぎりまで迷っ

た末に三田国際でバランスよく伸ばすことを選択しました。本人が3年生以降日本語で勉強してきたこともあり、本人としては納得できる結論だったようです。

　我が家は、娘の受験が 11 月でピークが重なり、とても大変な時期でした。親としても、家族の在り方や、子供の将来、どういう風に育ってほしいか振り返るいいきっかけになりました。息子には、自分で壁を越えてもらいたい、やり遂げる体験をしてほしいと思ってはじめた入試ではありましたが、息子のできる部分と課題になった部分を突き付けられたところでした。彼が行く学校は自主性を重んじ、自らの考えをもってデザインすることを求められています。自分でできることを増やして、今後大きく成長をしてもらいたいと考えております。